

# ポリクリを終えて 早期臨床実習を終えて

## ポリクリ実習を終えて

歯学部5年 谷 畠 里 誌



ポリクリ臨床予備実習が  
終っておよそ1ヶ月が経ち  
ました。約9ヶ月にわたつ  
て各診療室を回って見学を  
したり、診療介助をしたり、  
模型実習をしたりと、本当  
に多種多様な実習があり、

多くの事を学びました。その中でも特に印象に残  
ったのは学生相互実習です。

実際に他人の口の中を見るのはそれだけで興味  
深いことでしたが、口腔内診査に始まり、カリエ  
ス除去、レジン充填、浸潤麻酔、伝達麻酔、採血  
といった様々な実習項目がありました。それまで  
ほとんど他人の口の中に触れたことのなかった自  
分にとっては、本実習を前にして、良い経験にな  
ったと思います。時には痛みを伴う実習もありま  
したが、実際の診療における患者さんの苦痛を知  
る、と言う点を考えると、学生時にしかできない  
貴重な実習だったと思います。

臨床予備実習で最も多くの時間を費やしたの  
は、各診療室における外来での見学実習でした。  
各科の外来での雰囲気にはプレッシャーを感じる  
こともありましたが、しかし、ただ単に診療内容を  
見学するだけでなく、先生方の患者さんへの対応  
を見学することで、患者さんに対する全人的医療  
のあり方を、垣間見ることができたと思います。

現在では、総合診療室での本実習が始まり、6  
年生の先輩方から、患者さんの引継ぎが終ったと  
ころです。実際に診療を行う責任ある立場となり、  
いよいよ歯科医としての第一歩を踏み出そうとし  
ています。まだ駆け出しの自分を指導してくださ  
る先生方や、総合診療部に足を運んでくださる患

者さんに感謝の気持ちを忘れず、自分のできるこ  
とを精一杯やり、1日1日しっかりと学んでいき  
たいと思っています。

## 早期臨床実習の感想

歯学部1年 高 橋 遼 平



早期臨床実習の中には大  
きく分けて三つの実習があ  
ったが、振り返ってみると  
その一つ一つは自分にとつ  
て貴重な体験だった。私の  
父は歯科医師なので、何回  
か治療の現場や患者さんと

のコミュニケーションを見たことはあったが、大  
学病院という施設が整っていて、先生がたくさん  
いる中での現場は見たことがなかったため、この  
実習は興味深いものだった。また、一年生の時は  
教養が中心となり歯科診療にあまり関われないだ  
ろうと思っていたが、実際にはそうではなく、歯  
科医師がどのような仕事であるのかを実習を通し  
て理解することができた。

治療見学実習を通じて、何処でどのような治療  
が行われているかについて分かった。見学をして  
いる際には、先生の中には説明をしてくださる方  
もいてとても勉強になった。実際の治療を近くで  
見学できたことによって改めて歯科医師の重要さ  
と、知識や技術だけでなく体力も要求されていて  
大変な仕事であるということを実感した上で、歯  
科医師になりたいという強い気持ちを持った。

また、患者付き添いでは、患者さんが病院に入  
ってくるところから出ていくところまでを共に行  
動させてもらったことによって、患者さんとのコ  
ミュニケーションを取る練習になった。そして、  
患者さんと接することによって思いやりの気持ち

の大切さを痛感した。専門的なことを聞かれて困ったこともあったが、歯学部 학생として努力することに対するモチベーションが上がった。

そして、患者役実習では六年生に検診してもらった。私は治療されることはなかったが、口の中を見られることには少し抵抗があった。少しでも安心して治療を受けてもらうためには、医師と患者とのコミュニケーションが大切だと自分でも確認できた。

週に一回ではあったが、このような実習のおかげで歯科医師という仕事について、自分なりに理解できた。様々な場所に行き、その際には先生方にはとても親切にしてもらった。この実習をこれからの自分に活かしていきたい。

## 早期臨床実習Ⅲを終えて

歯学部2年 宮野 恵梨子



ある科では通常先生方が行われていることを実際

2年生で行った早期臨床実習Ⅲでは、昨年よりもより深く医療に関わることができました。毎週グループで病院内の名診療室を見学したのですが、その見学の仕方も科によって様々で、

に直接患者さんと向き合ってもらえていただくことができました。それに対して患者さんも、歯科医師としてはまだ何もできない未熟な学生である私たちを1人の歯科医療に携わる者として対応してくださったので、一歩医療人に近づけた感じがしてとてもよい体験となりました。医師の側からすれば、1日に何人も患者さんを担当し、その都度挨拶をしてエプロンをつけ、治療やその説明をしますが、患者さんの側から見れば、その繰り返される動作がその日の最初の医師とのコミュニケーションとなるので、ごく当たり前の単純な動作であっても、1つ1つ丁寧にきちんと行わなければならないということを自らの経験によって深く感じました。このように患者さんに近い立場から歯科医療を見るということは早期臨床実習だからこそ体験できたのだと思います。

また、歯科に関する、それも実際の治療からの生きた知識をいくつも得ることができたことをとてもうれしく思います。さらに、歯科医師のあるべき姿や、将来自分の目指す歯科医師像などについて、多くの見学を通して考えさせられました。これらの貴重な体験から得たことはこれからの学習においてとても大きな意味を持つものになると思います。この早期臨床実習での経験を活かし、立派な歯科医師になれるよう、今後の勉学にもさらに励みたいと思います。

